

# 明治中期における北野公園設置計画見込地の復原

木 村 大 輔

〔抄 録〕

本稿では京都市建設局緑政課所蔵の1892（明治25）年作成『北野公園設置計画書』を紹介しつつ、『北野公園計画書』に収められている資料に基づいて北野天満宮周辺の公園予定地の景観復原を行った。この結果、『北野公園設置計画』の所収資料は内容によって五つ資料群に分類でき、またそれらは時間的順序によって体系化することができた。また、旧土地台帳と内容が合致することから景観復原資料としても十分に耐えうる資料であることがわかった。このことから近代以降の公共事業や都市計画もまた歴史地理学研究の資料として用いることができる。

**キーワード** 北野公園計画、景観復原資料、資料の時間的順序

## 1. はじめに

本稿の目的は、1892（明治25）年作成の『北野公園設置計画書』（京都市建設局緑政課所蔵）に基づいて北野天満宮周辺の公園予定地の景観復原を行い、京都市街地の西郊に位置する北野の景観の特色を考察することである。歴史地理学において近代都市とその郊外地域のある時点における景観、および一定期間における景観の変容を考察する際に基本資料として用いられてきたものが、公的機関によって作成された地形図・地籍図や民間業者によって刊行された都市地図類・土地宝典などである。しかし、地形図は村落地域の豊かな表現に比べ、都市内部は公的な施設の分布は読み取れるものの景観が一樣に表現され、詳細な景観を考察することができない。そのため地形図では読み取ることのできない詳細な景観を考察する際には地籍図や土地宝典などが基本資料となる<sup>(1)</sup>。

近代京都の場合、京都地方法務局所蔵の土地台帳付属地図については昭和期に書き改められた場所があり、そのため場所によっては詳細な景観を考察することが困難である。明治17年の上京区地籍図や下京区地籍図、明治45年の京都地籍図はあるものの、これらを補う資料がなくはない。特に上京区地籍図や下京区地籍図には図に対応する台帳が存在していない<sup>(2)</sup>。そのため台帳の代わりとなる情報が必要となる。それに対応しうる資料の一つとして『北野公園設置計画書』があげられる。公園設置では予定範囲内に民有地が存在した場合、その民有地

を買い取らねばならない時がある。そのため計画段階では民有地が存在した場合、その土地の面積、地目、価格、建物の有無にいたるまで調査が行われる。北野公園計画においても設置見込地に民有地が存在しており、細かな調査が行われたことは計画書の内容からも明らかである。

近代以降、都市開発や都市改造を目的に多くの公共事業あるいは都市計画が行われた。北野公園計画を都市計画の一種とみなすならば、上述のような事前調査は他の公共事業や都市計画でも行われていた可能性は高い。つまり、これまで等閑視されてきた公共事業や都市計画にも、詳細な景観を復原あるいは考察する上で重要な手掛かりとなる情報が含まれている可能性がある。

これまでに北野公園計画について言及したものは、見解の限り中嶋の研究のみである<sup>(3)</sup>。中嶋が根拠として用いたのが『天満宮千年祭北野会誌』の神苑の項に記載された以下の一文である<sup>(4)</sup>。

本会事業ノ一タル神苑拡張ニ付テハ曩ニ京都市ニ於テ京都西北部ニ一ノ公園ヲ開設スルノ議起リ其設計予測ヲナスコトナリ京都市会ハ北野公園測量費ノ支出案ヲ議決シ測量セシムコトアリ其計画タル東ハ七本松通ヲ限り南一条通ヲ境トシ西北ハ郡部ニ亘リ金閣寺付近ノ一帯地ヲ公園トナセル極メテ大規模ナリシガ遺憾ニモ其俟中止ト成タリ

1902（明治35）年の北野天満宮千年祭の記念事業として、『北野会誌』を作成した北野会が神苑建設を行った。この神苑建設の背景に北野公園計画の中止があったことから『北野会誌』に上述の一文が記された。これまで北野公園計画が存在したであろうことを伝える唯一の資料と考えられてきた。そのため、本稿で紹介する『北野公園設置計画書』についても、その存在すら認識されることは殆どなく、ましてや詳細な景観の情報が記載されていることなど皆無であった。

表1 『北野公園設置計画書』の構成

No.	資料名
1	北野公園開設見込地立毫調
2	① 北野公園地建家買上げ評価調書
	② 北野公園地立毛評価書
3	北野公園見込地並建坪取調書
	① 北野公園開設地区域求積
	② 北野公園開設見込地総計坪数
	③ 北野公園見込地建家坪数総計
4	北野公園開設見込地取調書
5	上京区元第六組瀧ヶ鼻町外九ヶ町 元第十三組東堅町 元第十四組新建町 葛野郡衣笠村大字小北山村小字鳥居前段ノ上一筆限調
6	北野公園開設見込地買収費概算取調書
7	北野公園開設見込地 地口并建家求積図
	① 北野公園区域仮定線之略図
	② 北野公園開設地区域求積付図
	③ 建坪図

※No.7②については資料名が不明のため筆者が便宜上、図名を付した。

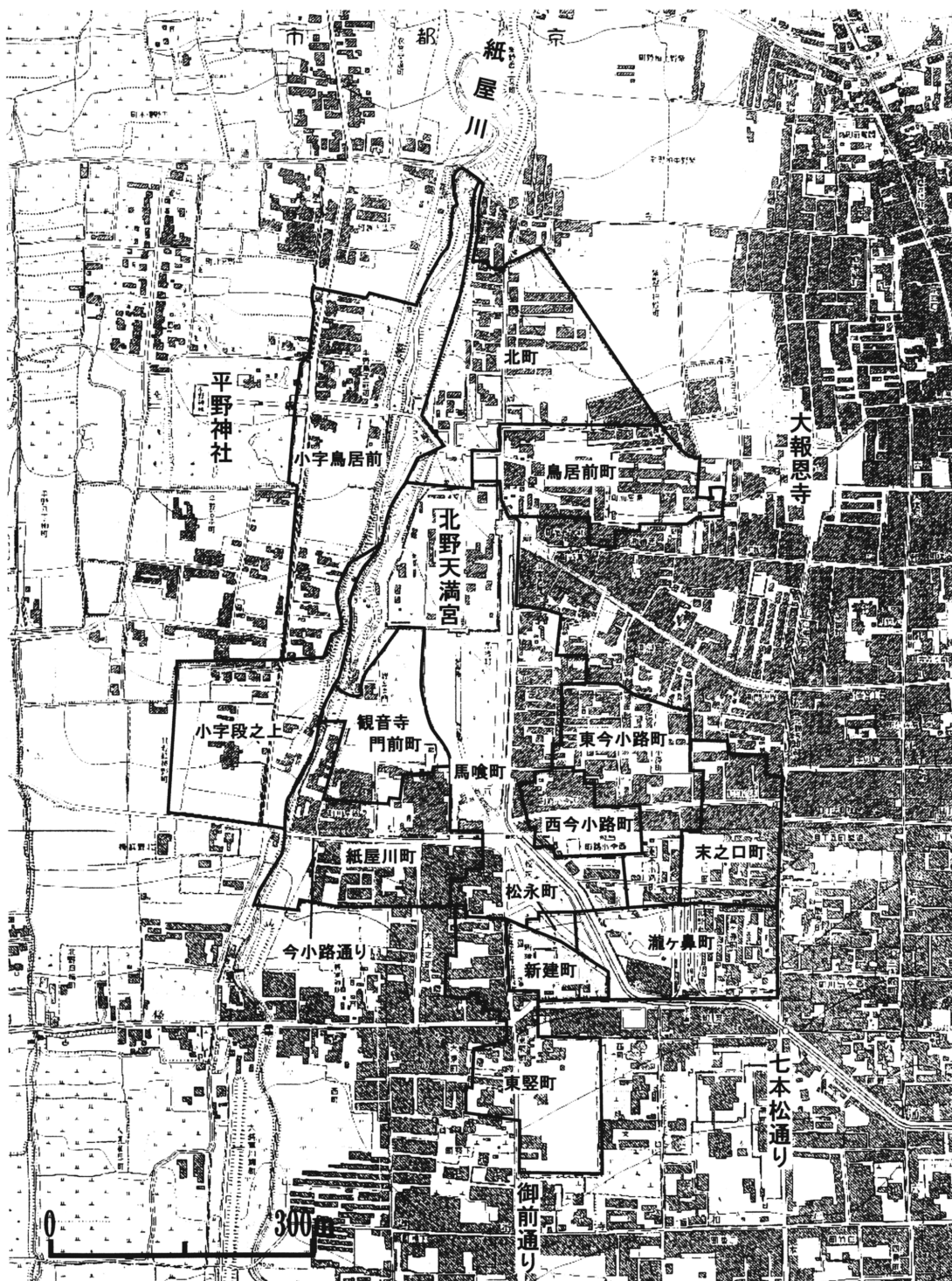


図1 北野公園計画見込地範囲の町名



## 2. 『北野公園設置計画書』の資料構成

京都市建設局緑政課所蔵の1892（明治25）年作成の『北野公園設置計画書』には11点の資料がまとめられている（表1）。『北野公園設置計画書』の目次をみると、9点の資料が6つのグループに分けられている。表1のNo.1～6はそれを示したものである。ただし、No.7に関しては目次に記載がないため、便宜的に筆者がNo.を付している。また、表1中の①～③も筆者が便宜的に付した番号である。

『北野公園設置計画書』では記載単位に町・小字のほかに、「号」という区域を用いている。北野公園計画で公園予定地としてあがっているのは、上京区元第6組瀧ヶ鼻町、同組末ノ口町、同組東今小路町、同組西今小路町、同組馬喰町、同組紙屋川町、同組松永町、同組観音寺門前町、同組北町、同組鳥居前町、上京区元第13組東堅町、上京区元14組新建町、葛野郡衣笠村字小北山小字鳥居前、葛野郡衣笠村大字北野小字段ノ上である（図1）。北野公園調査では以上の地域について調査の便宜上から公園予定地に「号」と呼ばれる五つの区域を設定している。号は町域・小字域とは別に設定されたもので、同一町内であっても別々の「号」に区分される場合もあった（表2）。

6グループにまとめられた『北野公園設置計画書』ではあるが、各資料の記載内容や体裁をみていくと、6グループの資料を以下のⅠ～Ⅴ群にまとめなおすことができる（図2）。

### Ⅰ群（No.1・No.2②）

No.1の資料は公園見込地内の樹種、耕作地における栽培植物を号単位で調査したものである。その調査は、畑地はもちろんのこと、宅地内に植えられている植物にまで及んでいる。記載項目は種類、太さ、高さ、本数、評価額である。No.1で示された評価額の号別合計を記したものがNo.2②である。

### Ⅱ群（No.3①・No.3②・No.7②）

No.3①は見込地を号ごとに数十個の土地区画に区分して測量し、その土地区画の一つ一つの面積を記録したものである。No.3②はNo.3①で記された面積を号別に合計した結果が示されている。No.7②はNo.3①の内容を図化したものであることから、No.3①の付図であったと思われる。

### Ⅲ群（No.2①・No.3③・No.7③）

No.3③は公園見込地内の建物の坪数を調査したものである。記載項目は号別に通し番号と建坪数が記されている。No.2①はNo.3③で示された建坪数を合計し、号ごとに記載したものである。No.7③はNo.3③の付図であると考えられる。付図には号別に、建物を示していると思われる正方形が描かれ、その一つ一つに番号が付されており、No.3③の通し番号と対応できるようになっている。ただし、建物が建っていた土地の区画や道路などは示されていない。そのため、具体的な建物位置を把握することが困難な部分も存在する。



表2 北野公園見込地の土地区画

号	町名	地番	地目	号	町名	地番	地目
1	上京区元第六組 瀧ヶ鼻町	429	宅地	1	上京区元第六組 松永町	911	畑地
		430	宅地			922	宅地
		431	宅地			923	宅地
		432	宅地			924	宅地
		433	宅地		上京区元十四組 新建町	1	宅地
		434	宅地			2	宅地
		435	宅地			3	宅地
		436	宅地			4	宅地
		436-1	官3官林地			5	宅地
		436-2	官3荒蕪地			6	宅地
		1005	畑地			7	宅地
		1005-2	宅地			8	宅地
		1005-3	宅地			9	宅地
		1006	宅地			10	宅地
		1008	畑地			11	宅地
		1009	畑地			12	宅地
		1010	畑地			13	官3官林地
		1011	畑地	2	上京区元第六組 馬喰町	912	宅地
	上京区元第六組 末ノ口町	998	畑地			913	宅地
	上京区元第六組 東今小路町	1003	畑地			914	宅地
		1004	畑地			915	宅地
	上京区元第六組 西今小路町	789	宅地			916	宅地
		790	宅地			917	宅地
		791	宅地			918	宅地
		792	宅地			919	宅地
		793	宅地			920	宅地
		797	宅地			920-1	官4西雲寺境内
		801-1	宅地		上京区元第六組 紙屋川町	822	宅地
		801-2	宅地			823	宅地
		802	宅地			824	宅地
		803	宅地			825	宅地
		804	宅地			826	宅地
		805	宅地			827	宅地
		692	宅地			828	宅地
		693	宅地			883	宅地
	上京区元第六組 馬喰町	694	宅地		上京区元第十三組 東堅町	110	宅地
		898	宅地			111	畑地
		899	宅地			112	山林藪地
		900	宅地			113	畑地
		901	宅地			114	宅地
		902	宅地			115-1	宅地
		903	宅地			115-2	宅地
		904	畑地			116	宅地
		904	官4浄香庵境内			117	宅地
		905	宅地			119	宅地
		906	宅地			121	宅地
		907	宅地	3	上京区元第六組 組屋川町	862	宅地
		908	宅地			863	宅地
		909	宅地			864	宅地
		910	宅地			865	宅地
		910-1	官3荒蕪地			866	宅地
						867	宅地

明治中期における北野公園設置計画見込地の復原（木村大輔）

号	町名	地番	地目	号	町名	地番	地目
3	上京区元第六組 組屋川町	868	宅地	4	葛野郡衣笠村 字小北山 小字烏居前	31	郡村宅地
		869	宅地			32	畑地
		870	宅地			32-1	畑地
		871	宅地			33	山林藪地
		872	宅地			34	山林藪地
		873	宅地			35	畑地
		874	宅地			36	山林藪地
		875	宅地			37・38	畑地
		876	宅地			39	山林地
		877	宅地			40・41・42	畑地
		878	宅地			43	畑地
		879	宅地			44	山林藪
		880-1	宅地		葛野郡衣笠村 大字北野 小字段ノ上	1	山林地
		880-2	宅地			2	畑地
		881	宅地			3	畑地
		882	宅地			4	郡村宅地
		1039	山林藪地			4-1	郡村宅地
	上京区元第六組 観音寺門前町	816	宅地			4-2	郡村宅地
		816-1	官 4 観音寺境内			4-3	郡村宅地
		817-1	山林藪地			4-4	郡村宅地
		817-2	山林藪地			4-5	郡村宅地
		817- 4	官 3 官林地			4-6	郡村宅地
		818	宅地			4-7	畑地
		819	畑地			4-8	郡村宅地
		820	宅地			4-9	畑地
		821-1	山林藪地			4-10	郡村宅地
		821-2	山林藪地			5	畑地
4	葛野郡衣笠村 字小北山 小字烏居前	3	畑地			6	畑地
		17	山林地	5	上京区元第六組 北町	631	宅地
		18	郡村宅地			632	宅地
		19	郡村宅地			633	宅地
		20	郡村宅地			634	宅地
		21	郡村宅地			635	宅地
		22	官 3 荒蕪地			635-1	官 3 官藪地
		23	山林地			635-2	官 3 荒蕪地
		24	山林藪地			1031	畑地
		25	官 3 荒蕪地			1041	宅地
		26-1	畑地			1044	山林藪地
		26-2	山林藪地		上京区元第六組 烏居前町	666	畑地
		27	畑地			667	宅地
		28	郡村宅地			668	宅地
		29	郡村宅地			668-1	官 3 官藪地
		30	畑地			669	宅地

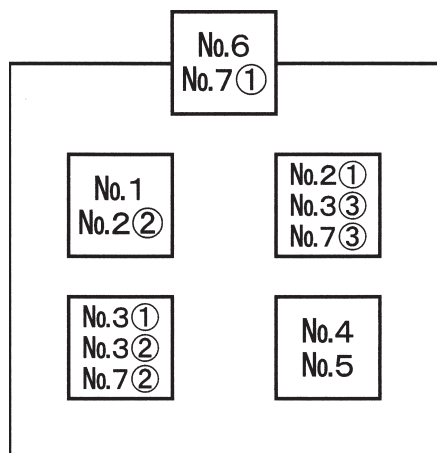


図2 資料の組み合わせと関係

IV群 (No.4・No.5)

No.5の資料は公園見込地内の土地区画を記したものである。資料には地番、等級、地目、所有者、面積、地価、地租が記載されている。その内容は土地台帳とほぼ合致することから、No.5の資料は土地台帳を基に作成されたものと思われる。No.4の資料はNo.5をまとめるかたちで、号別に地目別の面積と価格の合計が記載したものである。ただし面積を見ると、No.5の合計数がNo.4の合計数より大きくなっている。

V群 (No.6・No.7①)

No.6は北野公園設置計画の調査結果をまとめた報告書としての性格を有している。そのため、No.6には北野公園設置計画についての経緯や目的、各群で示された調査結果が述べられている。そしてNo.7①の地図はNo.6の概略で述べられた内容が描かれていることからNo.6の付図であったと考えてまちがいない。

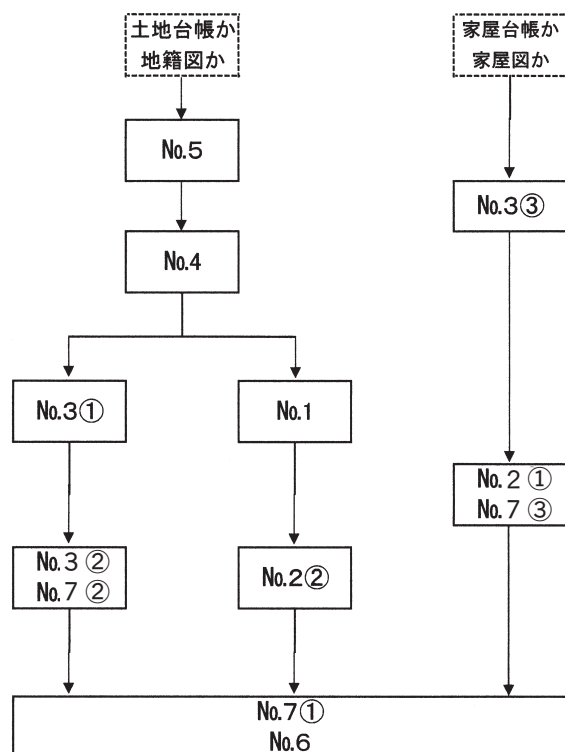


図3 北野公園計画における調査および資料作成の時間的順序

以上のことから、現存する『北野公園設置計画書』の目次にある7グループは内容の統一性がなく、文書と図を分けてグループ化しているため、調査の進行という時間の順序に従ったものにもなっていないことが分かる。したがって、この資料は北野公園設置計画に関する調査書、および報告書を後年になって整理した編集物と考えられる。さらに、筆者が記載内容に基づいてまとめなおしたI～V群も時間的順序まで配慮したものではない。そこで、I～V群を記載内容からうかがわれる時間的順序、すなわち北野公園設置のための調査のプロセスを想定すると、図3ようになる。

公園予定地の調査にあたって最初の作業は予定地の土地状況を把握することであろう。予定地の基本的な情報を記載しているのは、記載項目から見て土地台帳



の記載情報を引き写したものと考えられるIV群の資料No.4・No.5およびIII群No.3③である。資料No.4・No.5についてはすでに述べたようにNo.5のほうが、合計面積が大きい。後述するが、公園予定地は計画の進行に合わせて縮小していく。こうした点からいえば、No.5が最初に作成された資料である可能性が高い。また、III群No.3③は、土地台帳ではなく、家屋台帳によると思われる資料である。

資料からうかがえる第二段階の作業は予定地の土地状況を、植生・土地・家屋など対象別に調査し、まとめることである。家屋に関しては、No.3③に基づいて資料No.2①とNo.7③が作成されている。土地台帳に基づいて情報については、I群に示したように土地台帳では把握できない宅地内の植生まで調査して評価額を出し、また土地面積はII群No.3①の測量結果をNo.3②にまとめ、No.7②で図化するという作業が進行したのである。

以上のような作業を経て、最終的に調査結果をまとめたものがV群のNo.6・No.7①である。ただし、No.6には手書き原稿とその印刷物があり、印刷物が最終的な報告として使用されたものと考えられる。

### 3. 北野公園設置計画見込地

ここでは北野公園設置計画の見込地の選定がどのように進行的だったのかという点を確認しておきたい。北野公園設置計画の序文ともいえる北野公園設置にかかる調査の報告である資料No.6中に、設置計画の経過が簡略にまとめられている（資料1）<sup>(5)</sup>。

#### 資料1 報告書序文（仮）

知事 印 掛長 印 第二科

書記官 印

角倉殿 印

参事会

北野ニ公園開設ノ為メ其地域調査ノ義本年通常市会ヨリ建議有之候所、如何ナル公園ヲ設ケルノ目的ナルヤ其趣旨判明セサルモ、凡ソ新ニ公園ヲ設ケントセバ、須ク衆庶偕楽ノ地タルニ背カサルモノヲ設置スルノ目的ヲ以テ適當ナル園域ヲ査定セサルヘカラズ。故ニ先試ニ区域ヲ第一第二第三ノ三ツニ仮定セリ。其第一区ハ判例○印略図第二区仮定線西南隅ヨリ北衣笠山船岡山ヲ境トシ、東南ニ曲折シ、七本松通第二区仮定線ニ接続セルモノナリ。第二区ハ北ハ平野神社ヨリ東ハ大報恩寺迄ヲ直接ニ境トシテ、東ハ七本松通ヲ境トシ、南ハ下ノ森南人家前ヲ西ヘ直線ニ御前通ニテ曲折シ、北人家前ヲ西ヘ直接ニ境トシ、西ハ平野神社西縁ヲ南ヘ直線ニ境トセルモノナリ。第三区ハ図面朱点線ノ通ナリトス。第一区ハ勿論第二区ハ当市公園トシテ設置セル相当ノ地域トハ相認候得共、今日ノ場合到底行シ難ク、第三区ハ少ク境界錯雑セルモ第一ニ紙屋川ヲ利用セル可、第二ニ北野平野ノ両神社境

内ハ仮令本園敷地ニ編入シ能ハサルモ両境内地トハ宛然一体ノ形状トナシ、共ニ風致眺望ヲ保有セシムル可、第三ニ經費ヲ省クガ為メ巨大ノ建造物等存在セル部分ハ成ルヘク之ヲ避ル可、此三要点ヲ重ナル目的トシ区画査定セルモノニシテ適當ノ園域ナリトス。尚ホ之ヲ宅号ヨリ五号迄五区ニ分割シ以テ継続起業ノ便ヲ計リ全冊〔調書ノ通土地買収費ヲ毎区ニ〕〔挿し込み一筆者〕取調本園開設見込地図ヲ調製併供一覽美也。

但、本園開設地域及工事計画ノ目的予定セサレバ、工費ハ勿論調査費ト雖モ算定難相成ニ付、来年度ノ通常市会ヘハ見込地域并設地買収費概算等ノ報告ヲナスノ積ヲ以テ報告案ヲ起草スルモノトス。

資料1は『北野公園設置計画書』No.6に含まれる手書き資料である。資料タイトルを欠いているため、仮に「報告書序文」と呼んでおく。調査主体は「市事務掛第貳科」で、報告書序文の冒頭に1892（明治25）年の通常市会で北野公園設置のための調査について建議であったことが記載され、調査主体あるいは京都市当局からみれば北野公園設置の目的が曖昧であったことを指摘している。それだけではなく、但し書きによれば、北野公園設置計画は周到に準備され予算的措置を事前に講じるなどの必要な手続きを経ないままに、唐突に浮上した計画であったようである。

その後の記述は公園計画見込地（予定地）の範囲設定についての記事がほとんどである。北野公園計画見込地（予定地）については、当初三つの「区」と呼ばれる候補が考えられていた（図4<sup>(6)</sup>）。三つの区のうち、最大面積になっているのは第1区で、その範囲を報告書序文は「第二区仮定線西南隅ヨリ北衣笠山船岡山ヲ境トシ東南ニ曲折シ七本松通第二区仮定線ニ接續セルモノナリ」と記載している。「第二区仮定線西南隅」とはNo.7①の地図に記載された「○」から、現在の西大路通今出川通の交差点付近に相当することが分かり、そこを基点としてか衣笠山を結ぶラインを西限、衣笠山から船岡山に至るラインを北限として設定している。また、第二区の範囲は、「平野神社ヨリ東ハ大報恩寺迄」を北限とし、七本松通を東限、平野神社西縁を西限としている。南限は第1区と同じである。全体的に言えば、第1区の東南部分に当たり、面積も小さくなっている。最後の第3区は報告書序文にある「図面朱点線ノ通」とあるように、『北野公園計画書』No.7①に記載された点線に従ったものである。第3区は紙屋川西側にも広がっているものの、下の森を含む北野天満宮周辺地域に限られている。

これらの三つの見込地（予定地）は、報告書序文の「凡ソ新ニ公園ヲ設ケントセバ、須ク衆庶偕楽ノ地タルニ背カサルモノヲ設置スルノ目的ヲ以テ適當ナル園域ヲ査定セサルヘカラズ。」という条件に適ったものとして設定されたものである。しかし、第1区・第2区とも「到底行シ難ク」と判断され、資料1では第3区を適当な計画予定地としている。第1区・第2区の実現を困難として理由について資料1は明言していないが、第3区で計画を進めるにあたって「經費ヲ省クガ為メ巨大ノ建造物等存在セル部分ハ成ルヘク之ヲ避ル可」とあることから、經費の

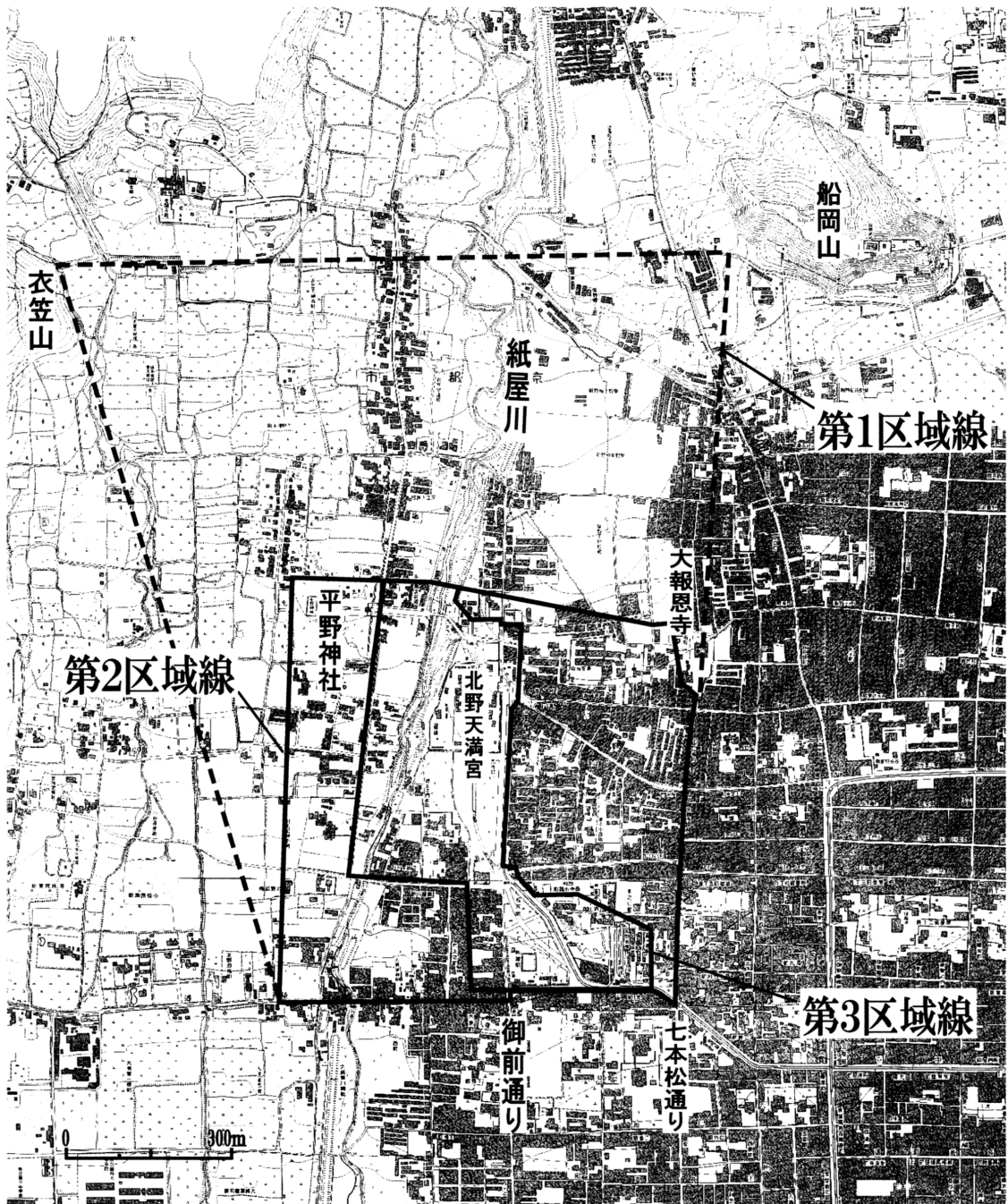


図4 北野公園計画の候補地  
（「北野公演区域仮定線之略図」と「北野公演開設見込地買収費概算取調書」を参考に作成）



縮小が課題になっていたことがうかがえよう。そして、以下にあげる「京都市報告第二号<sup>(7)</sup>」になると、「土地買収及工事両ツナカラ多格ノ費用ヲ要ス」と記述し、調査・建設費用が多額に上ることが第1区・第2区の公園設置の実現を妨げる要因になっていたことが明らかになる。

#### 資料2 京都市報告第二号

北野ニ公園開設ノ為メ其地域調査ノ義本会ノ建議ニヨリ之ヲ調査スルニ、摸範ヲ廣大ニシ開設セントセハ、土地買収及工事両ツナカラ多格ノ費用ヲ要ス。又区域狭少ナレハ、公園ノ實ヲ失スルヤ必セリ。故ヲ以テ、稍地域廣潤ニシテ園囿ノ趣致ヲ構成スルニ足レルヲ度トシ、北野平野両神社境内地ト本園トヲ宛然一体ノ形状トシ、紙屋川ヲ利用シ共ニ風致眺望ヲ保有セシムルヲ主眼トシ、経費ヲ省略センカ為メ少ク区域錯雑セルモ、巨大ノ建造物等存在セル部分ハ成ヘク之ヲ避ケ、以テ園域ヲ区画シ尚本区ヲ一号ヨリ五号迄五区ニ分画シ実測図ノ通査定セリ。盖シ其五区ニ分画セシ所以ハ、継続起業ノ便ヲ計リタルナリ。而シテ土地買収費は大略別紙概算書ノ通ナリトス。

右報告ス

「京都市報告第二号」（資料2）で注目されることは、公園見込地（予定地）は最終的に報告書序文（資料1）が推奨した第3区とも異なる区域になっていたことである。経費や公園としての条件、すなわち「風致眺望」などの基本的な考え方は報告書序文と変わらないが、平野神社境内を第3区に含めて経費等の概算を行っている。「区域狭少ナレハ、公園ノ實ヲ失スル」ため、平野神社境内を加えて「稍地域廣潤ニシテ園囿ノ趣致ヲ構成スル」公園として設定したのである。

#### 4. 景観復原資料としての『北野公園設置計画書』

前章で見込地の範囲の復原をおこなったが、『北野公園設置計画書』では見込地を一筆単位まで復原することができ、範囲内のどの部分が対象地であったかを知ることができる。復原図のベースマップとなる地籍図には1884（明治17）年の上京区地籍図を用いた。通常では旧土地台帳付属地図を用いるところではあるが、北野周辺の旧土地台帳付属地図は昭和期に書き改められていることから、1892（明治25）年まで遡及することが困難である。そのため比較的作製時期に近い上京区地籍図を用いることとした。また、今回は図1との対応を考えて見込地以外の土地区画も復原をおこなった。上述のように上京区地籍図には、それに対応した台帳あるは帳簿が存在しない。そのため、まず京都地方務局所蔵の旧土地台帳で地番の照合し、土地区画の変化の有無を確認した。その結果、1884年と1892年とでは土地区画に大きな変化はなくほぼ合致することがわかった。また、若干の変化部分については作製時期が少し離れるが、

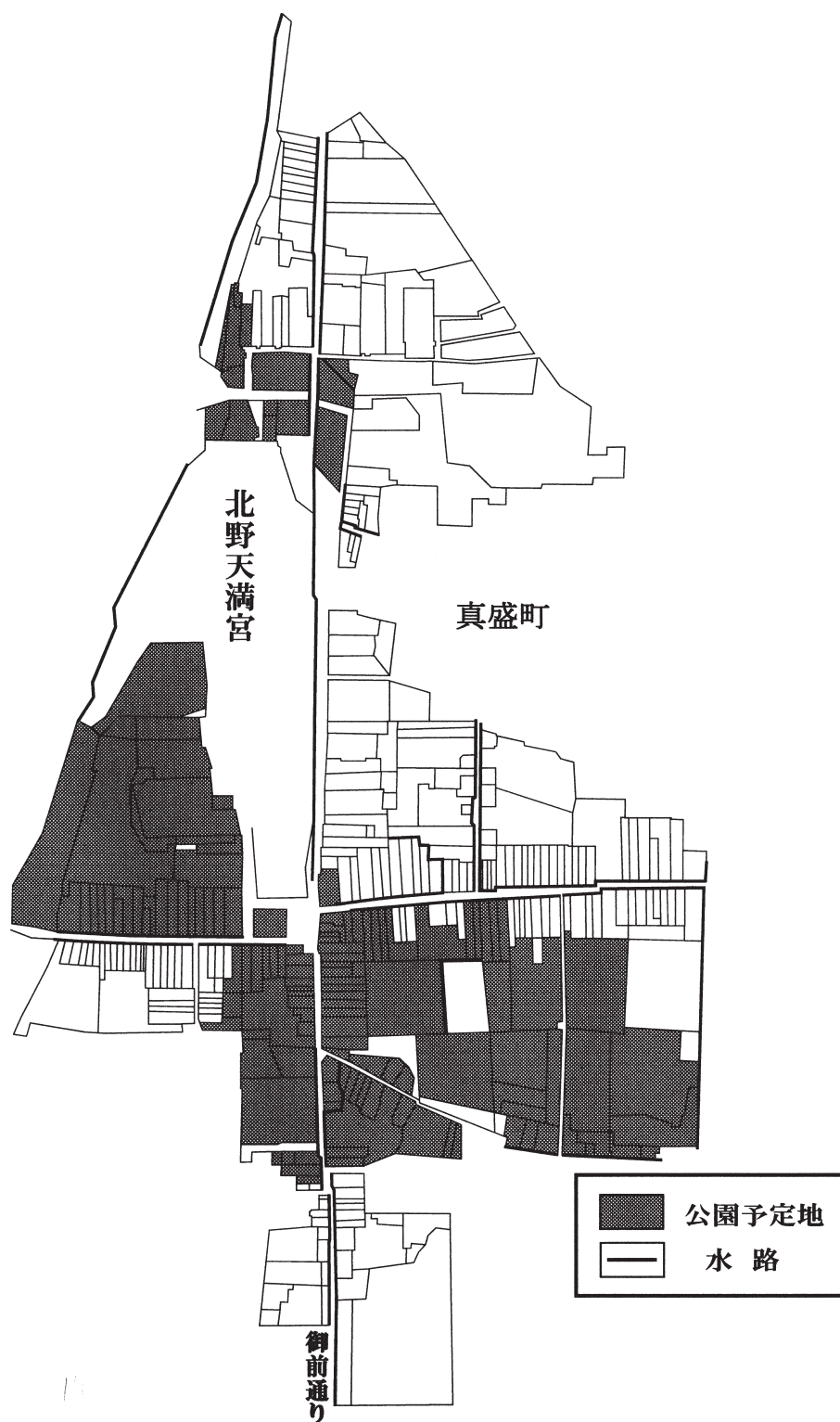


図5 北野公園計画見込地の復原

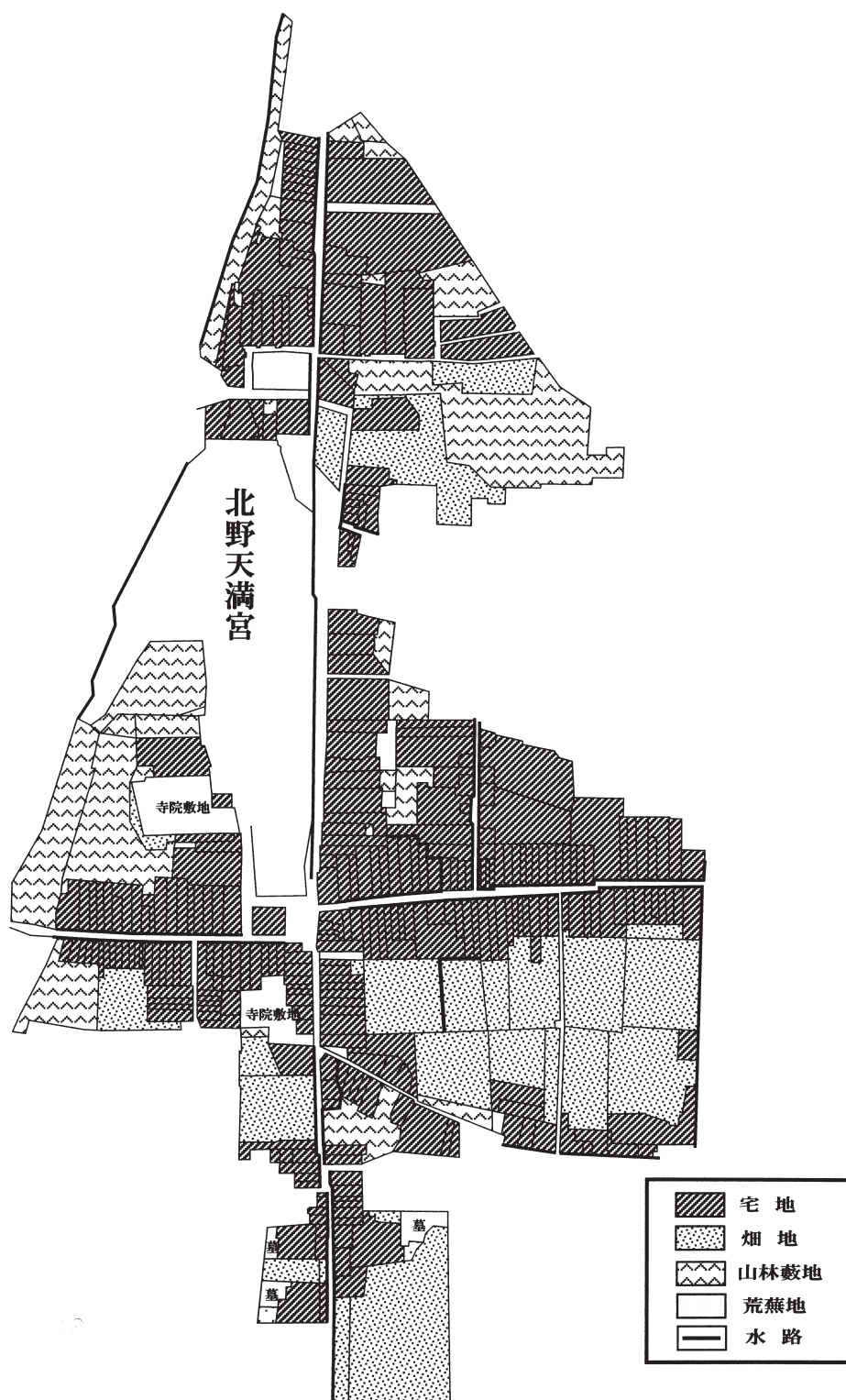


図6 北野天満宮周辺の土地利用



1912（明治45）年の京都地籍図を参考にした。なお、今回は上京区地籍図に郡部がないことから4号地の部分に関しては割愛した。以上のような作業を経てベースマップを作成し、表2の情報をもとに投影したものが図5である。

図5をみると見込地は、今小路付近を除いて、図3の第3区域内に収まり、見込地の分布は三つの地域に集中している。一つ目は北野天満宮の北門に位置する。比較的狭い範囲ではあるが、この場所は江戸時代には平野神社への、あるいは平野神社からの出入り口として知られていた（図1）。二つ目は北野天満宮西南部に位置する今小路の北側の地域である。ここは紙屋川町の今小路北街区と観音寺門前町のほぼ全域にあたる（図1）。そして三つ目が北野天満宮の東南部で御前通と七本松通に挟まれた地域である。この地域は近世以来、下ノ森と呼ばれる繁華な場所で、その全域がほぼ含まれるかたちとなっている。

三つの地域はいずれも北野天満宮と必ず接している。北野天満宮境内は公園予定地に含まれていないが、北野天満宮を核に、紙屋川を取り込みながら平野神社と接するかたちで北野公園が構想されていたと考えられる。そしてそれは、資料1や資料2にあった「紙屋川ヲ利用シ共ニ風致眺望ヲ保有<sup>(8)</sup>」という記述とも合致する計画になっている。

しかし、北野天満宮を核としながらも隣接するすべての地域が見込地となっているわけではない。真盛町を中心とする北野天満宮東側の地域は、対象範囲から除外されている。また見込地範囲内であっても、北野天満宮東南部にも対象地から外れた土地区画がある（図5）。そこで、土地区画レベルでの見込地選択について土地利用を手掛かりに考えてみたい。図5と同範囲に旧土地台帳の地目情報を重ねたものが図6である。これをみると通りに面して短冊形の宅地が続いていることがわかる。ただし、通りを外れた場所には大きく、不整地な宅地が広がっている。また、第3区域（紙屋川以東）の端には雑木林が広がり、畑地も多く展開していたことがわかる。特に畑地は北野天満宮東南部に卓越している。

図6の土地利用復原図と図5の公園見込地を比較すると、公園見込地は畑地・雑木林、そして宅地で構成されている。その宅地を図4で確認すると、第3区域（紙屋川以東）には紙屋川町北街区・松永町などが含まれ、西今小路町南街区は計画対象外になっている。当初に買収が予定された宅地が図4のように減少している点は、見込地の選考条件の一つとして経費を省くことがあげられていたことに対応した措置であったと考えることができる。そのなかで紙屋川町北街区・松永町などが買収予定地であったのは、北野天満宮と松永町など（下ノ森）の歴史的・文化的つながりと、風致を念頭に置いた紙屋川とを一体にした用地の確保のために紙屋川町の北街区が予定地に含まれたと考えられる。要するに公園設置にあたって、経費は抑えつつも、「狭少なレハ公園ノ實ヲ失スル」（資料2）<sup>(9)</sup>ことなく、公園としての体裁を整えることを目指し打っていたのである。

## 5. おわりに

本稿では京都市建設局緑政課所蔵の1892(明治25)年作成『北野公園設置計画書』を紹介しつつ、『北野公園計画書』に収められている資料に基づいて北野天満宮周辺の公園予定地の景観復原を行った。その結果、以下のようなことが明らかになった。

- ①『北野公園設置計画書』は後年に整えられた編纂物であり、担当者の資料への理解度によって資料本来の性格とは別のまとめられ方をしていることがわかった。『北野公園設置計画書』に収められている資料は、内容によって五つの資料群に分類でき、それらを時間的順序によって体系化することができた。
- ②Na.6の序文やNa.6の京都市報告第二号などの記述から、北野公園計画には見込地範囲の候補が三つ存在していたことがわかった。しかし、それらの候補は紙屋川、眺望風致、経費などの条件から、3候補中最も小さなものに決定した。また、その範囲は狭小過ぎず、されど経費が掛からないようなものへとシフトしていった。
- ③『北野公園設置計画書』の資料は土地台帳の内容と合致し、上京区地籍図など照合することで景観復原がおこなえることがわかった。
- ④復原図の結果から見込地の分布には偏りがあることがわかった。また、見込地の土地利用をみると、多くの宅地が含まれていた。それは北野天満宮を中心としながら、公園としての実と、限られた経費との間で生まれた範囲であった。また、北野天満宮周辺の宅地化が当時 すでに進んでいたことの裏返しでもあった。

以上のことから、『北野公園設置計画書』の資料は景観復原資料として耐えられるのみならず、公園計画見込地という限られた範囲ではあるが、ミクロスケールの地域情報も有していることがわかった。これは近代以降増大する公共事業や都市計画などの報告書類もまた、歴史地理学研究に用いることができることを意味している。

### 〔注〕

- (1) 木村大輔(2009)「明治・大正期の嵯峨における土地区画変化の歴史地理学的考察—分筆・合筆行為を中心に—」佛教大学大学院紀要文学研究科篇第37号、pp195~208。
- (2) 前掲(1)。この中で地籍図を資料として用いる場合の、土地台帳の重要性について言及している。
- (3) 中嶋節子(1997)「近代京都における市街地近郊山地の「公園」としての位置付けとその整備 京都の都市環境と緑地に関する研究」、日本建築学会計画系論文集第496号、pp249。
- (4) 北野会編(1906)『天満宮千年祭北野会誌』、pp136。
- (5) 京都市建設局緑政課所蔵『北野公園開設見込地買収費概算取調書』
- (6) 第3図に作製に関しては、Na.7①に第二区と第三区の範囲が実線で示されていることから、Na.6の記述と合わせて正確な範囲を示すことができた。一方で、第一区についてはNa.7①に記載がないことや、Na.6の記述も点情報が主なため正確な範囲が示すことが困難であった。そのため今回は第一区については破線であらわした。
- (7) 前掲(5)。
- (8) 前掲(5)。

明治中期における北野公園設置計画見込地の復原（木村大輔）

(9) 前掲(5)。

（きむら だいすけ 非常勤講師）

2012年11月15日受理